

# 古処山

Mt. Koshosan  
859.5m



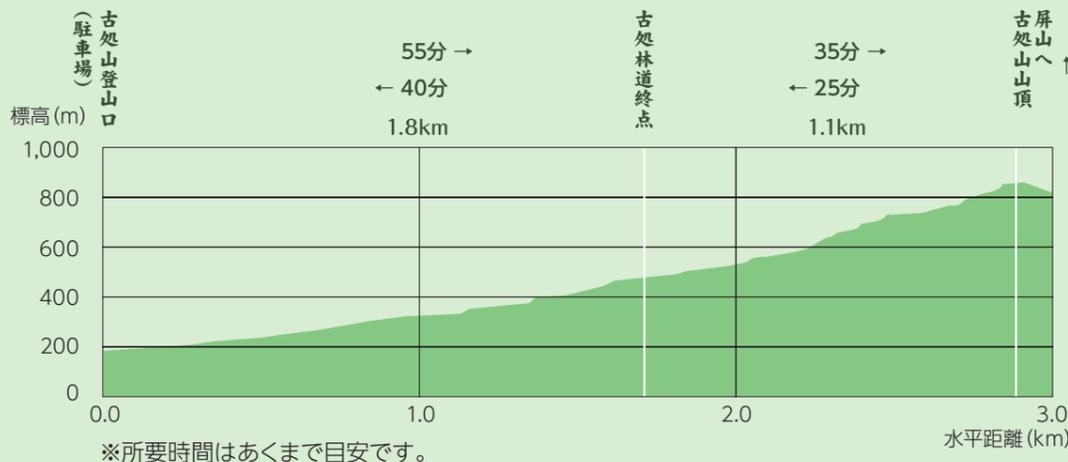
古処山の標高600m以上には自然林が広がっています。その代表的な自然林が「ツゲの原始林」です。

山頂一帯はブナ帯に入る標高ですが、この区域は石灰岩が露出し、ブナ林の代わりにツゲ林が発達し、最大のものでは樹高12mに達するものもあります。これらは、貴重な自然林として、国の特別天然記念物の指定を受けています。

ほかにも、山頂部には、ハナイカダなど石灰岩地に多い植物が見られ、多種にわたる植物や鳥類、昆虫類の生育地・生息地として、豊かな自然を今なお、とどめています。

また、ツゲ林とスギ、ヒノキの人工林の間にはアカガシを主体とした林があります。古処山はツゲ原始林で有名ですが、このアカガシ主体の林が古処山の自然林の大部分を占めています。

人工林も比較的手入れが行き届いており、中には「三角杉」と呼ばれる立派なスギの林もあり、古処山は人工林から自然林へと植生の変化を観察することができます。



1 国道322号線から登山口(駐車場)へ。



2 古処山から馬見山一帯にはスギ、ヒノキの人工林が多く見られるが、山頂付近には自然林が見られる。また、スギの造林地が三角形に見えることから「三角杉」と言われる場所がある。

3 登山口から、しばらくスギ林の中を歩く。溪流沿いを進むと、所々に石畳みがある。滑りやすいので、足元にはご注意ください!



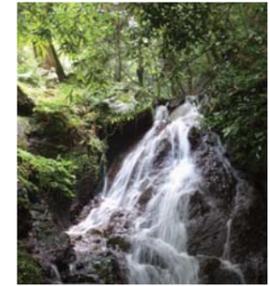
4 地名「野鳥(のとり)」のとおり野鳥が豊富。オオルリ、キビタキ、ミンサザイ、カッコウなど様々な鳥のさえずりを聞くことができる。



5 古処林道終点。ここが5合目付近。山頂までは、ここからが本番!



6 所々に小さい滝もあり、涼しさを演出。



7 水舟が見えたら8合目。ここから自然林が広がっている。自然林と人工林の植生を比べてみよう。



8 7~8月になるとオオキツネノカミソリが歩道脇に淡いオレンジ色の花を咲かせる。



9 ニシキキンカメムシは幼虫がツゲの実を餌として育つ。全国的には珍しい昆虫だが、古処山では豊富なツゲがあるため、多く見ることができる。



鮮やかなフォルムが特徴▶

10 石灰岩の古処山は、白山権現をまつところからも白山といわれている。山頂には、9世紀頃から修験道の霊場が開かれ、13世紀のはじめから約400年間は、領主秋月氏の山城があった。





**ツゲ** ◇ツゲ科ツゲ属  
◇常緑広葉樹 低～小高木性  
古処山を象徴する樹木です。葉は対生し、長さ1～3cmの倒卵形で先はわずかにへこんでいます。春先に枝先や葉腋に淡黄色の花が咲きます。



**スギ** ◇スギ科スギ属  
◇常緑針葉樹 高木性  
スギの植林は、山麓から谷部にかけて広く見られます。古処山には「三角形」と呼ばれる樹齢90年を超えた立派なスギ林もあります。



**ブナ** ◇ブナ科ブナ属  
◇落葉広葉樹 高木性  
日本の温帯落葉樹林を代表する樹木です。高さ30mになるものもあります。県内ではほかに英彦山、宝満山などに分布しています。



**タチツボスミレ** ◇スミレ科スミレ属  
◇多年草  
山野でよく見られる多年草です。地下茎は短く、木質化して横に這います。花は3～5月に咲き、大きさは1.5～2.5cmで淡紫色です。



**ニホンヒキガエル** ◇カエル目ヒキガエル科  
◇両生類 体長8～16cm  
日本の在来種としては最大のカエルです。ずんぐりした体形で、背面に多数の丸い小隆起があります。後肢は比較的短く、ジャンプ力はあまりありません。

**メモ欄** (観察日時などを記録しましょう)

観察した生き物は写真右上の□にチェックを入れよう。



**ヒノキ** ◇ヒノキ科ヒノキ属  
◇常緑針葉樹 高木性  
ヒノキの植林は、山麓から尾根部にかけて広く見られます。スギとともに建築材として最も多く利用されています。材の香りもよく、お風呂の材料としても利用されます。



**オオキツネノカミソリ** ◇ヒガンバナ科ヒガンバナ属  
◇多年草  
キツネノカミソリの変種です。キツネノカミソリより葉の幅が広く、花も大きく長さ7～9cm、雄しべが花被片より長く突き出ているため区別されます。



**ハナイカダ** ◇ミズキ科ハナイカダ属  
◇落葉広葉樹 低木性  
5～6月頃、葉の表面の主脈の中央に淡緑色で4枚の花弁を持つ小さな花をつけます。高さは1～2mになり、若葉は山菜として食することができます。



**オオルリ** ◇スズメ目ヒタキ科  
◇鳥類 夏鳥 全長約16cm  
九州以北の低山で繁殖し、特に溪流沿いの林を好みます。青、黒、白の配色をした雄は、木の頂で「ピーリーリー、ジェジェツ」と目立つ声で鳴きます。その美声から、日本三鳴鳥といわれています。

**九州自然歩道とは・・・**

九州自然歩道は、愛称“やまびこさん”で親しまれており、九州を一周する総延長約2,900kmの長距離自然道です。自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的として整備されています。

福岡県内コースは、北九州市の皿倉山から平尾台を通り、南下して英彦山に至ります。英彦山からコースは東西に分かれ、東はツクシヤクナゲの群生地である犬ヶ岳などを通り、大平山を経て大分県へ続いています。西はツゲの原生林がある古処山、1,300年の悠久の歴史を秘めた太宰府などを通り、基山を経て佐賀県へ通じる総延長261kmの道です。

福岡県内コースマップ  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyushusizenhodo-map.html>

**みんなで守ろう 生物多様性**

自然を愛する気持ち、守ろうとする気持ちは、身近な自然を知ること、ふれ合うことから始まります。希少な自然だけが守るべき自然ではありません。身近な自然も生物多様性の一部なのです。地図を片手に身近な自然にふれてみてください。

福岡県 環境部 自然環境課  
TEL : 092-643-3369 FAX : 092-643-3357

平成 28 年 3 月発行



**イロハモミジ** ◇カエデ科カエデ属  
◇落葉広葉樹 高木性  
紅葉といえば、この木を指すくらい紅葉を代表する樹木です。葉は直径4～7cmで5～7深裂します。古処山の8合目くらいに、高さ30mほどのイロハモミジを見ることができます。



**コウヤノマンネングサ** ◇コウヤノマンネングサ科  
◇コウヤノマンネングサ属  
◇コケ植物  
小さな木のような形をした大型のコケ類です。山地の湿った土壌の上に生育しています。「コウヤ」は高山野のことで、日本で初めて報告された場所にちなみます。



**ニシキキンカメムシ** ◇カメシ目キンカメムシ科  
◇昆虫類 16～20mm  
光沢のある鮮やかな模様が入る極めて美しい大型のカメムシです。幼虫がツゲにつくため、生息地は限られますが、古処山では見ることができます。5～8月にかけて活発に飛び回ります。



**キビタキ** ◇スズメ目ヒタキ科  
◇鳥類 夏鳥 全長約13cm  
平地から山地の森林で繁殖し、特に高木があり、その下にある程度の空間が広がる森を好みます。雄は黄、黒、白の目立つ配色をしており「ピッコロロ」「ピチュリ、ピツピリリ」などの美しい声で鳴きます。



**アカガシ** ◇ブナ科コナラ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
古処山から屏山にかけての尾根部に自生しています。和名の由来は、材が赤みを帯びていることからアカガシと言われています。



**ヒトリシズカ** ◇センリョウ科センリョウ属  
◇多年草  
山地の林下や日の当たる草地に生えます。茎は数本から多数が直立し、高さ10～30cmになります。4枚の葉が穂を包むように物静かな様子であることが名前の由来になっています。



**サワガニ** ◇エビ目サワガニ科  
◇甲殻類 甲幅20～30mm  
野鳥川の全域にかけて生息しています。石ころや枝葉の下にはサワガニの他にも清流にすむ生き物を観察することができます。



**ミソサザイ** ◇スズメ目ミソサザイ科  
◇鳥類 留鳥 全長約11cm  
溪流沿いの林に生息する、茶色で地味な色合いをした小柄な鳥です。雄は小さな体の割にとても大きな声で「ピピピチュイチュイ」などと複雑に鳴き、夏の溪流に彩りを添えます。